

平成 27 年度実施事業 中間報告書 (12 月 1 日現在)

コース	自主事業コース ・ <u>協働市民提案コース</u> ・ 協働行政提案コース		
事業の名称	障がい児の保護者の居場所づくり事業		
実施団体名	NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷ		
市担当課名	倉敷市総合療育相談センターゆめぱる		
総事業費	612,000 円	市の負担額	307,000 円
<p>事業の概要</p> <p>障がい児の親が気軽に立ち寄り話をして帰れるような「居場所」づくり。その場所をベースに様々な、親にとって有益なプログラムを提供する。今回は、本格的な「居場所づくり事業」を実施する前のプレ事業として実施。</p> <p><居場所 A「うさぎカフェ」> 倉敷市粒浦の一戸建てを借りて 2015 年 10 月および 2016 年 1 月の 2 か月実施する。(1 か月 + 1 か月、計 2 か月)</p> <p><居場所 B> 子育て支援の団体に協力を願い、「間借り」の形での「居場所」を実施する。(約 2 週間)</p>			
<p>事業の成果</p> <p><居場所 A> ついて</p> <p>2 か月実施予定のうちの前半 1 か月を 10 月に実施した。その成果は以下の通り。</p> <p>27 年度申請書における成果として定めた内容に対し、以下のような結果を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「悩んだり迷ったりしたときにすぐ話に行ける場所」...週 3 日開所することにより、「週 3 回くらい開いていると通いやすい」とアンケート回答にあった。気軽に利用できる程度、実施することができたということと考えられる。 ● 「障害児の保護者にとって悩んだときに早期にガス抜きする場となり得る」...アンケートで「カフェの利用価値」を聞いたところ「同じ立場の人や理解者の集まる場なので気楽に過ごせる」とあった。また「カフェに期待するもの」の回答では 1 位が「困ったとき不安な時にスタッフに相談したい」2 位が「同じ立場の人に出会って話をしてみたい」であった。普通の人には理解されにくい悩みを吐き出す場として捉えてもらえたものとする。 ● 「障害児の親にとって居場所の存在が“ 支え ”の実感となる」...アンケート回答によると来所者した保護者のうち 68% の人が今後カフェを「月に 2 回以上利用したい」と答えている。また自由記述でも「いつも(カフェが)していると思うと安心できる」という回答があり、「支え」として実感してもらえたものとする。 ● 「居場所の存在が保護者支援の必要性の啓発につながる」...カフェのことが山陽新聞に取り上げられたことにより、広く一般市民にも、障がい児の保護者に支援が必要なのだと認識してもらうことにつながったと思われる。また、カフェには支援者も多く訪れ、このような場所の必要性や今後の広がりの可能性について強く実感して帰って行ったようである。 			

<居場所 A うさぎカフェについての想定外の成果>

- 事業計画の段階では、1週間あたり20人の集客を目指し、居場所 A と B 合わせて2か月半程度実施し、1週間につき20人程度の集客を目指す、と目標を設定したが(つまり10週間で200人程度)居場所 A を1か月実施しただけで、その目標のうち8割を達成してしまった(4週間で166人集客)。
- 「保護者のための居場所」として実施した「うさぎカフェ」だが、実際に開所してみると支援者も多く訪れ、カフェの場で、支援者と保護者が自然に交流する姿が何度も見られた。これは保護者にとって理想とも言える自然な相談の形態と言える。

<想定外の成果を踏まえての計画の見直しと修正>

- 10月に<居場所 A うさぎカフェ>を実施してみて、この相談形態には予想を大きく上回るニーズがあることが確認された。今後実施する1月度の「うさぎカフェ」でも更に多くの保護者が来所することが予想され、最終的な集客数は目標値の150%程度に到達する可能性もある。そこで計画を見直し、<居場所 B (他団体の活動の場での間借り)>の実施を取りやめ、<居場所 A うさぎカフェ>の注力することにより、ニーズへの対応を図ることとした。

<新たに見えたニーズへの対応>

- <居場所 A うさぎカフェ>が紹介された新聞記事に「カフェでは個別相談も受け付ける」と掲載されたことにより、通常の「茶話会形式」ではほとんど参加がない「お父さん」からの相談が3件入った。「個別相談を受ける」ことを前面に出すことにより、カフェの場で「交流しながら癒され、相談もする層」とは別に、「複数だと話しにくいが個別の相談なら話をしようと思える層」に手が届くということがわかったため、当初の計画を見直し、カフェを実施しない11月・2月・3月も個別相談は受けることにして、<居場所 B >の実施に代わる相談形態として、これに注力することにした。

*事業の成果を自己評価すると何点になりますか。計画通りであれば100点とします。

なお、想定を大きく上回る成果を得ている場合は100点を超える点数を記入してください。

95

点

事業の課題

10月に実施した<居場所 A うさぎカフェ>では、利用者数が予想を大きく上回ったことにより、それを受け止めるだけのスタッフや設備の体制が追い付かず、一人ひとりの保護者に関わる時間が減ってしまった。今後1月のカフェ実施時にはスタッフが来所者に関わる時間を十分確保できるよう、客席の増設やカフェで提供する内容の精査が必要だと考えられる。

目標の進捗状況

【10月のうさぎカフェ 利用実績】

平成27年10月一か月間におけるうさぎカフェ利用者...延べ166名、正味114名

利用者のうち障がい児の保護者は68名、そのうち新規利用者は44名。新規利用者の割合...65%

- 今年度の目標を、新規利用者の割合を70%に引き上げることとしていましたので、第1弾を行った時点でその9割を達成した。

事業実施記録 *実施した事業の詳細を記入してください。

実施日時	実施内容	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
2015年10月2日、5日、6日、7日、9日、14日、16日、19日、21日、23日、26日、28日、30日	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい児の保護者が気軽に相談したり、同じ立場の保護者同士交流したりできるような場をカフェの形式で提供。週3回10時～15時開所。飲食店営業許可、食品衛生責任者取得 ● 個別相談（計3回実施、1回あたり1時間～1時間半） 	倉敷市粒浦 217 - 2（一戸建て・借家）	7人	166人 対象：障がい児の保護者や家族・支援者・事業協力者
11月9日 11月18日	個別相談（1回あたり1時間～1時間半）	倉敷市粒浦 217 - 2（一戸建て・借家）	2人	2人 対象：障がい児の保護者